

第1回一宮町まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

日時 令和 5年12月 5日 (火)

午前10時00分～

場所 一宮町役場4階 議員控室

F委員

一宮町には、あまり来たことのない町であったが、4月にこちらに来てから海と山とが融合した街並み、豊かな自然に恵まれた町であったかい気持ちになった。着任してから感じたことをお話しさせていただければと思います。

一宮町は、人口も維持されて地価も上昇しているということで、この周辺エリアの中ではポテンシャルのあるエリアだなと思っております。

我々、融資の業務なども行っているのですが新規開業ですとか移住ですとかといったお話もたくさんいただいております。特に新しく宿泊施設を開業したいといった相談もありまして、そういった中でも高付加価値、高価格帯の宿泊施設が誘致されて融合されているといったものが特徴かなと思っております。サーファーだけではなくて、一宮町の宿をとということで遠くから来ている。

この基本目標①のサーフィンを軸とした新たな人の流れの創出につながってくるのかと思いますがサーフィンは波も良いと聞きますし、サーフィンに関してはブランド力のある町であると実感している。

県外の企業の経営者がサーフィン好きで移住され、本社をこちらに構え事業展開しているといったケースも多くある。

宿泊業が増えている中で、課題として宿泊者が増えるだけでなく、いかに町にお金を落としてもらえかが大事であると思う。そこに飲食、お土産などが重なっていくことで客単価一人当たりの町へ落とすといかれるお金を増やしていくことも大事である。そんな中、「地域商社のちばぎん商店」を数年前につくりまして、地元食材（農産物・海産物）を使った宿泊プランをつくってみませんかといった提案などを宿泊業者さんに行かない町の皆さんとも連携して地域を盛り上げて進めていけたらと思っている。

移住者（サラリーマン）も非常に多く、テレワークも流行っておりますし、東京まで特急で1時間というアクセスの良さもあります。また、セカンドハウスとして利用されている方もいると思う一方、土地も空いているところはあると思いますが、土地の購入者からすると、なかなか土地が見つからないといったケースがあり、バブル期に高値掴みして購入した土地が今、そこまでの価格に追い付かないといった状況で、なかなか売

れず塩漬けになっているといった土地もある。そういったところの情報も有効活用して移住したいけどなかなか見つからないといった方にとってはスムーズに進むのかなと思います。

J委員

以前から、宿泊を含めた滞在時間を増やしていくことは観光という点からも、更には回遊性をどう広めていくか、あるいは地域資源をどう活用していけるか、その地域での連携をどう作りだしていけるかが課題ではありましたが丸山委員からすると順調に進んでいるといったことですね。

D委員

資料をお配りさせていただきました。ハローワーク茂原と一宮町の求職者と求人数、就職数の2022年度と2021年度とコロナ禍前の2019年度と比較した表になります。

まず、求人の方ですが全国的にみても視覚的にみてもコロナ禍で求人が大きく減少した後、昨年度（2022年度）は、回復基調にあります。ハローワーク茂原では回復基調に入っていないということで新規求人数の2022年の増減をご覧くださいと▲8.6%とコロナ禍前と比べてみても2019年度、▲51.3%ということで、ハローワーク茂原管内では求人数はまだ回復基調にはなっていない。

一宮町に対しては2022年度については昨年度に比べて減少なんです。コロナ禍前2019年度に比べると25.3%の増加でした。この増加の要因については後ほど触れさせていただきます。また新規求職申込件数ですがコロナによって大きく求職者が増加したのですがその後減少傾向になっている。これは、茂原所でも一宮町でも同じ現象になっておりまして増減が昨年度に比べても茂原市管内▲5.8%と一宮町ですと▲11.4%ということになっています。

月間有効求職者数では、一宮町▲2.2%ということで、新規求職者申込件数に対して月間有効求職者数が少ないのはどうしてなのかということですがコロナの為、雇用保険受給者が増加してきているのと、就職件数があるのですが就職件数が減少になっております。新規求職申込件数というのは、当月に申込された方の積み重ねなのですが有効求職者数は新規で申し込みした後で翌々月分の3ヶ月分の総計となっております。就職されると有効求職者数から抜けるということなんです。求職者はより良い条件を見極めて応募する方が増えてきておりまして就職数が減少しているので、有効求職者数として抜ける数が少なくなっている。有効求職者数の減少が小さくなっています。

就職者については、年齢ごとにみますと若い方は大きく減少しているのですが高齢者

の方（65才以上）が大きく増加している。明日も茂原で高齢者の方の面接会を開催するのですが募集をかけるとあっという間に定員オーバーになってしまいます。ということで、高齢者の方の就職者活動が活発化してきています。

次のページ、後ほどご覧いただきたいと思いますが、本年度2023年度4月から9月の前期の3年分の比較です。

その次のページ、求人数の増減を主要産業別でみたものになります。茂原地区については、回復基調に入っていないとお話ししましたが、茂原地区は元々製造業が強い地区ではあるんですがコロナ禍前と比較しても昨年と比較しても増加になっている。

コロナの影響を大きく受けた飲食・宿泊業ですが茂原地区については、コロナ禍まえと比較しますと▲43.2、昨年度と比較しますと▲28.4%と大きく減少しており、まだまだ回復基調にはなっていない。一宮町の飲食・宿泊業については、コロナ禍前と比べると11.9%の増加、昨年度と比較しますと▲39.0%。茂原全体と比べて一宮町については、飲食・宿泊業については若干回復基調にある。大きく減少しているいちばんの要因としてはサービス業でコロナ禍前と比較して242.9%の増加、昨年度と比較しても39,4%の増加。これは、建物サービス業の事業所さんの就業場所が千葉県各地なんですけどそこからの業績拡大による求人が大きくでておりまして、ここが大きく増加していることが要因である。

お願いですが、一宮町の雇用の数字が必要でしたらお気軽にご連絡いただければと思います。

E委員

自治体の広報体制について、他市の状況等含めて参考意見としてお話ししたいと思います。長生郡市の自治体では定例会見をしているのは茂原市だけなんですけれども、年に4回行われておりまして、定例議会の前日に開いておりまして、そこで、議案の説明ですとか催し物などの説明をしてもらっております。他の町村に関してはメールで都度、情報提供いただいている。千葉市では定例会見を月2回開き、それとは別に毎日、定時にメールを配信し広報してくれていた。

今の一宮町の状況をみていますと担当者の熱意や意識次第で情報を頂いたりしている。例えば千葉市ほどとは言いませんが、月初めなどに町の催しや取り組んでいる事業の情報をメールなどで提供できないかご検討をしていただけたら有難い。

千葉日報デジタルという子会社があり、そこでは、県内の自治体とシティープロモーションですとか広報の情報発信に関する連携協定を結んでおりまして、市町村に出向いてプレスリリースの仕方や広報のやり方の研修をするなどしておりますのでぜひ、参考にさせていただければと思います。

基本目標1 ①サーフィンを軸とした新たな人の流れの創出で評価がAになっておりますがAにした理由と「駅周辺商店街と海岸部の人の流れを創出します。」についての評価を具体的数字でわかるようなものがあるのかどうか。

事務局

KPIの上総一宮観光案内所利用者数、目標値は5年間で10,000人ですが実績値8,710人來ているということと、釣ヶ崎観光案内所利用者数で、目標値が5,000人と甘い設定になっているかもしれませんが、昨年4月に開設しまして、12,623人來ていることなどもございまして、また、土日などには玉前神社周辺にも人が來ていることなどを含めましてA評価にしてございます。

町長

玉前神社方面の回遊者については、しっかりした調査がないんですが、議員で観光のお仕事をされている方によりますと、玉前神社周辺は年間最低でも10万人くらいの回遊が実際あるとおっしゃっていました。レンタサイクルなどの利用をみてみますとかなり町の中の回遊がある印象ですのでこのようなA評価になっております。

E委員

釣ヶ崎海岸から町中への回遊に対するデータは何かありますか。

町長

データは、残念ながらありません。スマートフォンを使用するなどして、どこで買い物したかなどのモニター調査はできるかもしれませんが現在のところまだ調査はしておりません。玉前周辺のお店の方に伺うと、かなりサーフィンをされている方などの來訪があるといったことは報告されています。

C委員

本校の児童数は、150人をいったりきたりといえますか推移しております。本校に限らず一宮小学校、一宮中学校とも児童数、生徒数は減少というよりも横ばい、または増加傾向にあり、長生郡市に限らず千葉県内でも珍しい地域、学校であると認識しております。その背景には、サーフィンとの関係があります。東浪見小学校、一宮小学校ともサーフィンを目的に住居を一宮町に移すというようなご家庭もありますが、やはりオリンピック、また、風光明媚な場所ということで古くは別荘地としても有名だった一宮に移り住んでいるといった人たちがおります。具体的には、東京、神奈川、サーフィンを含めてですけれども千葉県内では千葉市、最近では日本海側からも移り住んでいるというような状況です。

校長として3年目ですけれども非常に驚いたのは、私は、茂原市、長生郡内の学校を渡り歩いたんですが、正直言って田舎といった認識でありましたが、一宮町東浪見の方

はインターナショナルだなあという認識になっております。というのは、サーフィンについては、大会参加、研修、それこそプロサーファーが中学生に誕生するような場所でもあるのですが、国でいうとオーストラリア、インドネシア、アメリカ本土、ハワイなどにもたくさん行っております。更に驚いたのは、語学留学でそれを小学生からやっていて、方面についてはオーストラリアで、申し上げずらいのですが来たる3学期をまるまる語学留学するといったご家庭もあります。

これらの話から、経済的に恵まれたご家庭もあるのも事実です。また、そういった子供たちが一宮で教育面で色々なサポート等を頂きながら活動しているというのも事実です。先程ご説明のありました基本目標の3、⑤⑥⑦これに関するものとして、文科省、更には千葉県では、人の話を聴いたり、見たりして、それをまとめ、自分たちの言葉で発表、表現する能力を高めようといったことで取り組んでいます。それが最終的に学力の向上に結びつく。そして、12月5日から県では「千葉っ子学びの未来デザインシート」簡単に申しますと、得た知識や技能が、将来働く労働者としての人間育成に結びつくという試みが始まっております。資料等も届いて本校でも取り組むところですが、子供たちが問題を見つけ解決する能力を更に高めようといった県の施策を一宮町がこの⑤⑥⑦で、既に関係するような取り組みをしているということになると思います。ここに書いてあるとおりで一宮町内を電車やバスを使ったりして農業、工業、商業至る分野に出かけて生の声、生の研修をしております。また、逆にたくさんの講師を招聘^{しょうへい}して出前事業で馴染みのある業界（キッコーマン、ヤクルトなど）をはじめ多種多様の講師に来ていただいて授業しています。色々な面で取り組み、また恵まれている状況を心がけて取り組んでいるところです。

GIGAスクール構想につきましては、お陰様で全員タブレットを持ち、そのタブレットを元に校外学習や学校内でもカメラ、映像など納めながら授業で取り入れたりする試みしております。更に評価としては、Bの部分も多いですけれども充実させて行けたらよいと思います。

A委員

私は45年程前に一宮町へ引っ越してきまして、その頃に比べると町の様子も変わってきている。特に海岸の辺りはこの町の礎みたいなかたちになっているのではないかと思います。この総合戦略をそういう住民の視点から読みまして気がついたところがあるのですが、一つは総合戦略1期、2期を通じて、この町が将来目指す将来像、それがこの総合戦略をよく読んでも漠然としてはっきりとした形が頭の中に出てこないんです。まあ、自分の能力のせいもあるんだと思いますが、原因のひとつは町のスローガンになっている「躍動する緑と海と太陽のまち」が30年も40年も前から同じスローガンでやってきているということで、スローガンがまちづくりのコンセプトになるということであるとすると少しずれてきているのではないかなと思うんで

す。海があつて、緑があるところであれば「躍動する緑と海と太陽のまち」というのは、どこでも使えるスローガンではないかと思うし、ということは一宮町としてのオリジナリティが欠けているし、現状、一宮町だけではなくて社会的流れに沿ったスローガンというものではなくなっているのではないかと思うんです。前回の第1期の時も言わせていただきましたけど、そろそろこのスローガンから抜け出す時期じゃないかなと思うんですけど、もう第2期に入ってこういう形になっているので8年度までこれで行くのでしょうか。実際の生活者の視点からみると町で考えられていることとずれが生じている。特に少子高齢化の視点が全く感じられないというのがあるので、一つは私の希望として言わせていただくとスローガンをもう一度見直すという体制を作っていたきたい。その他にも総合戦略重点事業の中に26事業あるがこの事業が並列に並べてあるのか、それとも凸凹があつて優先順位があつて、一番重要なのはどれなのか。26事業のうちB評価が全部で18事業あり、まあまあ良いといった評価ですよ。それが、一宮町の中で暮らしていると全く感じられません。例えば基本目標1の①サーフィンを中心とした新たな人の流れの創出がA評価ですけれども、ある面A評価は良いとしても新たな人の流れの創出の面からみるとA評価は良すぎるのではないか。実際に町の中を走ってみると新たな人の流れの創出は感じられる程ではありません。平日も土日も同じ人の流れでそう変わらない。国道128号線の商店街を自転車で走ってみても全く人に会わないことが結構多いですね。新たな人の流れの創出の意味がよくわかりません。しかも、サーフィンを軸としたという言葉がつくと海から町の方に新たな人がくる、町から海への人の流れが想定されるのでしょうけど全くこれはお題目ですね。実際、町の中を歩けばよく分かると思います。

あるサーファーの評価ですが、サーファーが一宮にたくさん来ている、確かに多いと思います。九十九里の浜で波ということだけで考えるとサーフィンの良し悪しはあまり変わらないと、一宮に人が集中するというの、一つはオリンピックの効果と海岸駐車場の整備で、これが大きいです。特に駐車場の整備は車を降りてすぐに海に入れるという浜が一宮以外、外房界限には無いということで必然的に一宮に集中しているだけであつて、サーフォノミクスでいうと果たしてそうなのかと一宮に住んでみればわかるのではないかと。

サーフォノミクスでいうと第1期の総合戦略の中で今残っているものでいうとSUZUMINEが町の中に形として残っている。SUZUMINEにコワーキングスペースがあると思うがその利用率はどれくらいなのか。

事務局

先日、SUZUMINEに伺いまして聞いたところ、空き室が1室でその部屋も契約も交渉中であるとのこと。コロナ禍では出てしまった方もいたけれども今は回復し満室とのこと。

られていないんですけれども、行政のメニューでは足りないので自分たちで何とかできないかということで138子育てネットワークを始めた経緯があります。子育て支援を通して町づくりにかかわってきて今、議員という仕事をやらせていただいています。

総合的にみた評価ですが甘めだと思います。数値目標がゼロのところもB評価というのは甘い採点ではないか。コロナ禍といったことがあったにしても、もう少し評価は厳しめでよいのではないか。この中で、住民の皆さんの主体的な自主的な活動の力をお借りできている場面が見受けられないことが淋しく思います。

H委員

私は、議員の他に長生農協に昭和55年に入社して、42年間奉職しました。今2年目になりますけど嘱託職員として農業に携わってきております。長生農協にも長生郡市の各市町村の農業の問題を解決するために中期3カ年計画や中期5カ年計画をこのような形でやっています。それと、議会があるのと同時に理事会があり、だいたい農協と役場の組織は似ているのかなというところでもあります。一宮町は、ご承知のとおりかつては全国有数なトマト産地でまた、梨では献上梨といわれる有名な農業地帯だったわけですが、検証されている中で、農業のことや他にも色々出ていますけれども、農協でも同じようなことをやって活発な意見交換をしています。個人的に何点か質問があります。

基本目標1の①サーフィンを軸とした新たな人の流れの創出でサーフィン会場と駅前観光案内所のレンタサイクルをやっているということですが、実は、私の近所でも移住者が最近多くなってきており、移住者からサーフィンをやってみてくれということで、サーフィンをやる立場となり、今年、2回程体験レコミュニケーションを図りました。検証の中で、レンタサイクルの実績で駅前が2,118台、釣ヶ崎が33台は、釣ヶ崎がほとんど出ていないということになる。例えば、駅から借りて釣ヶ崎まで行くとか、釣ヶ崎から借りて駅まで行くというような乗り捨てをやっていくともっと使いやすくなり、交流にも繋がるのかなと思いますので試してみるのも一つの手かなと考えています。それと、いすみ市の太東では海岸に時計があるが一宮には海岸に時計がない。サーフィンをする方は、時計が欲しいということをお聞きしたのでここで提案させていただきます。それと⑤の空き家バンクですが、新規就農者の関係があって興味があったのですが、実際対面してみるとこの空き家に昔からの家だと仏壇があるんですね。この仏壇をうまく改装していければ良いのではないかと考えます。

基本目標2の①農林業の振興ですが、農協も含め一宮町は、長生農業独立支援センターを4年くらいやっていて確かに定着してきております。一宮町ではネギ農家、トマト農家が入っているのですが、これも農協で検証しましたが、ネギは10アール当たり3トンの収量なんです。3トンの収量で市場価格平均1,100円、10アール60万円~70万円の収入しかない。そこから経費を引かれていったりするとだいぶ苦しい。一人でネギ

農家をすると50アールしかできないんですね。そうすると暮らしていけないという課題がでてきて、その中で、雇用をして面積を拡大する方法をしていこうということで現在、農協では実験しております。また、とまと農家の方も多く来ますが資材高騰の中で非常にハウスが高いということで新規でこれからハウスを作って、とまとをやれるのかといった課題もでてきていますので、その辺も一緒にサポートしていけたらと思っています。

基本目標2の④6次産業化の推進では、農産物の自動販売機を設置しておりますけど、やはり対面販売がないとPR的には難しいのかなと思いますのでこの辺も考えていたきたい。

基本目標2の②最先端技術を導入した農業の実現ですが、一宮町はドローンを活用したのと航空防除をやっていまして、その中にZGISを活用していると思います。これは全農がやっている補助管理システムということで、農家の方がスマホで圃場の管理ができるシステムで、今後、町としても当然、農地計画が出てくるのでこのシステムを大いに活用しながらやっていった方が良いのではないかなと思っています。

基本目標3の④「防災」「安全円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」を踏まえた無電柱化の推進ですが先般、東京都でもやっているということでしたが、これD評価になっていますが、これ何故入れたのかわかりませんが、これは無理なので、農協の場合は無理な場合はそこでやめます。いくら努力してもできないものはできないのでそういったことをここで検証するのかわかりませんが、そういったことを私は考えました。

B委員

私は、観光面から一言申し上げます。A3サイズの資料を用意しておりますので事務局から配布いただきます。

資料左上に記載しておりますが一言で申し上げますとコロナ禍からの回復は、顕著であり、更なる増加に期待しております。

私は、上総一ノ宮駅前の西口駅前広場で食堂を営んでおります。人の流れ等、後で説明したいと思います。日々、一宮駅の利用状況をみておりますが、観光を考える時に重要な3つの要素を図に記載しました。今後の総合戦略を実行するにあたり、観光客を一宮町に運び届けてくれるJR東日本について大切にすべきであると考えます。ここでは、自動車による移動は記載しておりません。自動車、道路整備については、次回とさせていただきます。観光客について考えますとアクティブシニアと呼ばれる年齢にこだわらず趣味や仕事に意欲的で健康志向が高く元気で活動的な60才以上の中高年は、幸いにして増加しているようです。こちらの方々に向けて、一宮町の魅力を積極的に情報発信しつつ実際にお越しいただく時の移動手段としてのJR東日本が鍵であると考えます。このJR東日本を取り巻く経営環境が厳しいものであるとのニュースを頻繁に耳にしま

す。調べてみますと外房線は、1987年（昭和62年）の国鉄分割民営化時の利用状況になっているとのこと。京葉線の開通は、上総一ノ宮駅までの通勤快速の運行により、都心まで約1時間という利便性から3割ほど増加したものの減少傾向です。区間別の収支状況では、勝浦駅から鴨川間は、100円を注ぐのに1,100円かかるようです。こちらのニュースは、NHKでも放送されましたので、皆様もご存じの事と思いますが上総一ノ宮駅を含む、前後の区間である茂原駅から勝浦駅の状況が気になります。JR東日本のホームページ等では、数値は公表されていないようですが是非とも把握したいところです。いずれにしましても、観光面のみならず生活を支えるJR東日本における今後の展開について情報収集をすべきと考えます。外房線は、心配ないかもしれませんが、将来に向け準備が大事であると考えます。明治の人々が苦勞し1897年（明治30年）に上総一ノ宮駅まで開業し126年。この路線を守り続けるのは大変かと思いますがまずは、勉強会が必要と考えます。

もう1点、人の流れとありましたが、私食堂やっておりますが、8時半から11時頃までは若いサーファーの皆さんです。釣ヶ崎海岸からのサーファーの方々が食事にきています。11時から13時頃までが一般のお客さん、16時から18時くらい迄がゴルフのお客さんで一宮カントリーの帰りに立ち寄っていただいております、お米の使用料は、1週間で30kgです。そのご飯の茶碗の数で大体わかると思います。

I 委員

私は、前回の会議から出せていただいております。一宮小中学校出身で高校から外にいったんですけれども、千葉大学に所属しています。専門は、健康まちづくりということで元々都市デザインですとかやっております健康とまちづくりについて研究しております。

本日伺った中で、全体として評価がやや甘いのかなといった印象を受けました。KPIが設定されている指標については、KPIに対して満たしたのかどうか。KPIが直接背後関係にない事業についてはその中でどのように判断されたのかをこの評価のところで適切に分けることが必要ではないのかなと感じました。

後は、各それぞれの事業で推進にあたって交互に有機的に結びついているものがあると感じました。具体的に申し上げますと基本目標1の③民間活力によるまちづくりで企業版ふるさと納税がございます。それと⑥の世界サーフィン保護区認定と基本目標2の⑤自然豊かで多様性に富んだ環境保全、この辺りは相互に関連付けていくことで一宮町の持っている資源や価値を上手にPRすることができるのではないかと思いますので、それぞれ事業あるかと思いますがそれを結びつける視点が必要なのかなと感じました。もう1点が、基本目標4の⑦健康寿命プロジェクトと⑧の公共交通の新たな展開でグリーンスローモビリティが書かれておまして、私まさに、研究で⑦⑧をやっているところがあります。その評価について、おそらく町が持っている様々なデータですとか⑦の今後の課題のところにデータヘルス計画や介護保険事業だとか色々なデータが

町の方からあると思いますのでそういったものを上手に評価していくことでこの⑦⑧についての対応策についても検討を進めるのかなと思っております。提案なんですけれども、我々、千葉大学では、内閣府から少し大型の地域をより良くするための研究費をこの秋から採択をしました。基本的に千葉市を中心にプランを考えていくのですが、その構想の中では、千葉市も千葉県各所から人を取ると千葉県の一宮も含む地域がどんどん減っていくので千葉市としては、東京から取りたいというストーリーにしている、そのコロナの後に移住者が千葉市の方でも東京からの移住者も増えていきますので東京からまず人口を取ってくると、そのためには千葉市も千葉県内の自然豊かな地域との交流だとか関係性をより深めていかななくてはならないというストーリーにしておりますので、そうした壮太構想の中で上手に一宮町のポテンシャルを活かしながら千葉県の中でも都市部と連携してそれを更に日本全国、特に東京から人口をもってくるようなことの発想がないと長期的にみたらかなり人口的にも厳しいと思いますのでそういった視点でのアイデアだとか議論をしているところです。ぜひ、一宮町の皆さんにもそうした中にご参加いただきまして意見交換させていただけたらと思います。

J 委員

広域的にどんな連携を作り出していくかということも重要な課題ですし、先ほどから出ているポテンシャルデレイトをどこで活かしていくのかストーリー性戦略をどう立てていくのか、といったことも大きな課題ですけれども、まず、ここで、ひととおりの皆さんからコメントご意見を頂戴いたしましたので、馬淵町長はじめ事務局のほうに今のコメントについて少しお答えを含めた発言を頂いて、その後、時間が限られていますけれども他に意見があればお願いして、私からも少しお話しさせていただければと思います。

町長

色々のご意見を頂きまして誠にありがとうございました。評価が甘めですねということをおっしゃっていただきましたが、まず、これは、全庁の三役はじめ各課の課長、担当者と全員集まって十分協議をして作りました。例えば、基本目標1の企業版ふるさと納税の寄付額の目標値が3千万円、実績値は、ゼロ円でした。空き家バンクの目標値も3件で、実績値はゼロ件でございました。実は、令和4年度単年度ですとゼロなんですけど令和5年度に入りまして、こういったところの実績がでてきております。私どもとしては単年度で直ちに飛翔するというのは望ましくはございますけれども、まあ助走し、助走は十分有効性があるその次の年の一定の成果に結びついたということで計画どおりの進捗としました。甘めというご評価を頂きましてもう一度見直しさせていただければと思いますけれども令和5年度になりますと評価があがって参るところでございます。根拠はそういったところになります。それから、個々に申し上げますとかなりあったと思いますが、住民の皆様との協働などについては、基本目標1の⑥世界サーフィン保護区認定

で、だいぶ民間の皆様とご一緒にやっております。それから⑤自然豊かで多様性に富んだ環境保全の生物多様性戦略の策定ですが、民間の皆様との協働によって進めているといったところです。ここにはあまりでていませんが、子育て、教育関係で東浪見小学校は学校運営協議会が設置されて、その地域とのつながりを強化するというで進んでいます。今後、一宮小学校、一宮中学校でも徐々にこういったかたちを增強していくといった流れになるかと思えます。日常的に教育のみならず子育て環境の整備なども住民の皆様との協働を強化していきます。ここには細かくでてきておりませんが、今後の町の方針として一貫して堅持していきたい。この町は12,000人の人口を維持しているのは、希少な方であります。優れた条件がいくつかあって若い世代の方々に選んでいただいております。選んでいただいていることを重くとらえると、子育て、教育、ここをいかに当事者の皆さんと良いものを行政が息長く作っていけるか、これはこの町が選ばれ続けるかどうかといことに直接かかわる大きな課題だと思っております。

川城委員からの基本目標3の④無電柱化について、無理だったらやめてもよいのではないかとのことですが玉前神社入り口の道路は狭隘でありまして、全体の移動に子どもたちの通学路としてもよくない。県道のバイパスができれば変わってくるのでしょうか、国道128号線への県道も一方通行です。何らかの補助金をもらって全体状況として、ここを無電柱化にできると非常に町の中心部としてよくなるということが見通せます。今の町の財政状況では、無電柱化の他に急いでやらなければいけないことがありますのでなかなか手が回らないですけれども目指すべきものとしてはおいておきたい。

荒木委員の方から町の目指す将来像が総花的で具体性を欠くのではないかといったご指摘をいただきました。私どもとしましては、もっと一点効果的にする可能性もあるとは思いますが多くの住民の皆様が多様な意見を包摂できるある種の広がりをもったものを、比較的何十年にもわたって「緑と海と太陽のまち」ということに多くの町民が共感をもってこれまで過ごしてこられておりますので、私どもは多くの包括性、包容性に注目してこれを採用させていただいたということであります。今後、もっと尖った形にするべきだという議論はありうると思っておりますけれども、私どもがそれを選んだのはそういう理由であります。

教育長

色々、皆様のご意見をいただいた中でまず、将来像のスローガンにあります「躍動する緑と海と太陽のまち」という言葉があります。躍動というキーワードと緑と海と太陽というキーワード、そして、サーフォノミクスと教育を結びつけたことで私の方から少し紹介させていただきたいと思っております。

今、一宮町はこのサーフィンの関係で非常に生徒数が増えております。実際にこの年度末ですけれども、つい最近になって小中学校合せて15名ほど転入があります。それによって、今まで12月のはじめまでは、中学校が3, 3, 4という学級で来年度スタートしようといっていましたでしたが転入があったことによって4, 4, 4で来年度は全学年4

学級でスタートするというふうに来年は計画をしています。これはやはり、サーフィンによる影響が非常に大きく、転入してくる子どもたちをみると、海、波、凧だとか海に関するようなそういった名前がお子さんたちから入ってきたりということで非常にサーフィンによる影響で一宮町の教育は大きく左右されているところがございます。実際に、躍動ということと結びつけていきますと小学校、中学校においても海外にサーフィンで遠征する子供たちが年間に二桁いると思われまます。その成果として、実は東京オリンピックで一宮町の出身である大原さんがオリンピック選手として出場しました。そして、次のパリオリンピックでも一宮町在住の稲葉さんがすでにオリンピックの選手として決まっているというようなことでサーフィンによる、この小さな町からオリンピック選手が2回続けて出てくるというのは非常に大きな成果ではないかというふうに思います。それと共に、サーフィンだけではなくて他のスポーツ競技でも、今高校2年生が先日行われたJOCジュニアオリンピック第17回U-18陸上競技大会のハンマー投げで優勝、高校1年生のボルダリングで、IFSCアジアユース選手権（中国・重慶）スポーツライミング日本代表に選ばれ先日中国へ行ってきただとかあるいは、レスリングで中学校3年生が今年ある4つの全国大会の内3つ優勝したことで非常に活躍をしていると、これはサーフィンだけではなく色々な刺激だとか色々なものが相まって躍動し活躍する子どもたちが生まれてきているという事実、一宮町にあるということをも、ご紹介したいと思います。それと、学びの面という総合的学習の中にこれは、緑に関する自然のことを学んでいく学習が小学校でも中学校、一宮商業高校でも行われている。それが観光に結びつけるとか、それから一宮町でどういう作物が作られているのかといったことを調べる。とまと農家やメロンだとかを調べるそういう学習だとか、そして、郷土の偉人である加納公、上総広常公など文化財講座を一宮町は他の自治体よりも多く行っているのではないかと思います。そういった偉人をとりあげ総合的学習で学んでいくことをやっている。先程、申し上げました緑と海と太陽、全てに教育は結びついていくということがあります。課題としては、老朽化してる施設や直近で直さなければならぬ公民館、校舎、GSSセンターがあるわけですがけれども、やはり、こういった計画をたてていく中で全て解決するというわけではないですけれども、一步一步前進していくといったまちづくりが大切ではないかと、それが曳いては子供たちの教育として、今後、この町に住んで私たちがこんな町をつくっていかうといった考えに発展していければ良いと考えているところでございます。

事務局

先程、川城委員から基本目標①サーフィンを軸とした新たな人の流れの創出ということで、レンタサイクルの回遊についてのお話があったかと思います。このレンタサイクルについては、駅前観光案内所、釣ヶ崎観光案内所どちらも乗り捨てはできるとのことです。釣ヶ崎観光案内所の開設後、年数が浅いことなどもあり、乗り捨てについての周知が図れていない状況です。引き続きサイクリングマップなども活用しながら周知に努めていきたいとのことです。

F 委員

令和8年度までの計画ということではありますが、単年度の個別目標は定めていらっしゃるのか。

事務局

5年後の目標値を設定しており、出来るだけ優先順位をつけて実施をしていこうというところで、単年度ごとに目標は設定してございません。

F 委員

支店を運営、経営している立場なんですけれども目標を達成するためには1カ月ごとに進捗状況を確認し効果検証をしている。その繰り返しでやっておりまして、短期の場合でも目標設定、効果検証がないと5年後までにこの姿までもっていくのは厳しいものがあるのかなと、蓋をあけたら目標達成できなかったということもありますので単年度ごとの目標を設定し具体的にやっていたほうがよいのではないかと思います。

G 委員

一宮町をさらに住みたく住み続けたい町にするためにということで、移住定住して年を老ってからでもここで住み続けることができるのかということ最近考えてます。医療の問題、公共交通機関の問題、健康寿命の延伸もそうですけど、子ども達がこの町を選んで住み続けるかどうか、そこを含めてここにどう盛り込むのか。

J 委員

医療の問題、公共交通機関の問題、健康寿命の延伸もそうですけど、子ども達がこの町を選んで住み続けるかどうか、そこを含めてここにどう盛り込むのかといった難しさもありますし、今、皆さんのコメント伺っておりまして、評価の在り方、計画の今後の立て方という部分で考えるべきポイントのひとつとしては、一宮町は総合戦略という形でこの計画をたてられていますけれども、これは同時に総合計画も意味するものだという事もお考えになって第2期総合戦略がたてられています。これまでは別だてで考えられていたわけですがけれども総合計画、総合戦略の法的根拠は、全く別物であってそこはまあよいとして、総合計画というのはある程度包括的であって、それぞれの課題を盛込んで基本計画、実施計画という形でたてていく。それに対して総合戦略というのは重点施策をたてて極めて成果があがるようなことを短期的に目指していく、とりわけ戦略性というのが問われるというのが総合戦略のポイントなんですね。従来の違いからするとタイムスパンの捉え方が違う、進め方も違う、事業の展開、戦略の在り方も違うことになる。その辺を同じものと捉えようとされているわけですからそこらへんをどんなふう考えていくのか、従来の総合戦略からすところここに入れなくてもというものがここに入っているといった抱き合わせでやられているからだと思うんですね。この辺をどう

位置づけるのかってというのは改めて捉えた上で、この計画の立て方、戦略の立て方、評価の基準の設定の仕方、そういったところに響いてくるのかなと思いますので、もう一回整理して描いた方がよい。特に評価基準とか評価の位相の違いみたいなものをうまく表せるとよいのかなというのが伺っていて思った点です。それから、先程、花里先生、委員の方もおっしゃっていましたが、こういう事業間ってというのが有機的に繋がってくる部分ってというのが結構あるかなあと、どうしても計画ってというのは分野別にたてられところがありますけれども、単発の事業で捉えていくと事業の効果も非常に薄い、逆に色々な事業が結び付けられて捉えられていくともっと相乗効果が生まれたり、色々なことができたり、新たな動きを誘ったりすることができる。そういう意味では繋がりをどういうふうにつくっていけるかということが非常に大事。これは、まちづくりのストーリー性です。ですからどこに重点をおくのかということも大事ですけれどもどんなストーリーでいくのかということが合せて問われてくるころなのかなというところもあります。

一宮町は、このストーリー性のひとつにサーフォノミクスをあてています。私は、これはうまく進んでいるのではないのかなと思っております。これは、私、一宮町に関わるようになってから教えていただいたことで、サーフィン、ただのスポーツで終わるものではないんだ。サーフィンというのは、スポーツであり文化であり、この地域に根差したものであり、経済も関わり生活の営みに関わる、そういうものとして地元ではサーフィンというものが捉えられているし、あるいは内外で色々な交流などの関わりを広げていくことに繋がるのがサーフィンなんだということを一宮町にきて初めて当事者に教えていただいてなるほどなあと思ったところがあります。そういった色々な繋がり、広がりがあるということ、それが今も、この計画の中にもある程度の部分は落とし込まれている訳ですから、そこからへんはもっとどういう風な繋がりっていうのを作っていかどうかってことが問われるころなのかなと、私なりの言い方をしますと、まちづくりにおいて、専門別まちづくりは終わったと思っているんですね。各専門別なことをやってもまちづくりは活性化しない。例えば、人生のライフステージであれば人間は生まれるから始まり、生まれる、育つ、学ぶ、働く、老いる、死ぬというのがステージであり、これを専門性で捉えると全部ぶつ切りにして一部分だけを切り取ってこれについてどうするかという発想になってしまうけど、もうそれでは対応できないという時代にきている。むしろ改めて、専門別対応だけでなくもっとその繋がりをどうやって回復させていけるかどうかということが問われている。例えば、まちづくりと健康をどういう風な形で積極的に結びつけていけるかどうか、専門別に分かれているものをどう繋げていけるかどうか。同じようなことを考えていけば、例えば、働くということと学ということも、もっとどう結びつけるか、先程、小学校の取組みについてもご紹介がありましたけれども、もっと、地元で働いている方との交わりが出てくればそれが働くキャリアってことの第一歩に繋がるし、更にはこの町にどんな魅力があって働いている人がいるのかを知る機会にもなる。郷土愛郷里に繋がるってことにもなる。そういうふうに働くってことと学ってことだってもっと繋がる。あるいは、子育て世代と高齢者世代、

現場にいけば子育て支援は子育て世代だけでやっている。高齢者福祉は高齢者だけでやっている、こういう傾向のところは圧倒的に多い。もっと両方の世代が結びついてくればもっと色々なことができる。そういうような繋がりを今の我々の社会は専門化され Zoom 化されてしまっている。それをひとつひとつ繋いでいくってところに色々な価値を見出していくっていうのが今のまちづくりの大事な根本的なところで問われているところなのかなと思いますので、そういう視点からこういった事業の繋がりにていうものを考えていくっていうのも非常に大事なもので、ただ単に連携していても始まらないし面白くもない。こういう繋がりをすることでこんなことができるという膨らみをどんどん出てくるまちづくりにしていくことが問われている。そういうことを総合計画に書くべきだと色々な町で申し上げているんですけども、でそれをどう戦略的に進めていくのかというのが総合戦略、大事な役割ですからそこをオーバーラップさせながら進めていけるかどうかといった点では今後も期待していきたいなと思います。まだまだ、繋がりにていうところでは弱いところが見受けられるところもありますし、先程もでおりましたけど、もっと色々な方々がまちづくりに参加をしていくことも大事で、先程、オープンデータの話もありましたけども今、情報公開からオープンデータへ移り変わっていく時代だなんていう風にいわれている。かつては、行政が持っている情報を渋々請求して公開するというこれが情報公開のイメージでしたけど、今は行政が持っている情報を整理できていないだけで相当量あります。行政が持っている様々な情報をオープンにしていく、オープンにされたデータ、情報を住民活動団体、民間企業、色々な立場の人たちがそれを活用しながら新たな動きをつくっていく、新たなビジネスをつくっていく、行政は種をたくさんもっているわけで、それをどんどん出していく。それを活用できるような場、プラントを作っていくことが問われているのではないかと思います。そういう意味では、いろんな立場の人たちが参加できる入口を作っていくことが大事です。同時に色々な立場の方々が交わりうるような場を行政が作ってもよいし民間企業が作ってもよいし、地域の団体がつくってもよいし、色々なところが作りうるのでそうした場を積極的に作りながら繋がりにていうものをつくっていくてもらえればよいと思います。地方創生という意味では学ぶということ、働くということ、地域の人たちが交わるということ、そういうところから色々な力を引き出していく、育んでいく、繋いでいく、そういう狙いのもと進められているものですのでそういったことも改めて年頭におきながら評価の在り方と今後、具体的な動きをとらえていただければと思います。

町 長

補足させていただきます。花里先生から一宮町の高齢者福祉健康事業などのところについて、先生のご研究とも直接関わってお話しをいただきました。実は、一宮町の介護保険、国保、後期高齢者医療ですけれどもいずれも、8年前に登板した当時、高齢化率が上がっていく中で医療給付がどうしても増えていく、会計の悪化が予想されるということが関連の専門家から意見上申がありました。結果的には一宮の場合は、高齢者の方

の医療給付の伸びが小さく、介護保険も国保も特にこの二つは収支がよいです。後期高齢者医療についても勿論黒字幅は少ないですけども黒字で全体として非常に良好な状況にあります。介護保険は第9期の計画を策定しておりますが第8期で標準介護保険料の月額を100円下げまして、また、今回も下げるという見通しだそうです。千葉県下、全国でも比較的珍しい事例のようであります。こういった高齢者の元気で過ごしていただいている状況、慶賀している。ご高齢の方々に出てきていただいて様々な活動に参加していただくといった色々な仕掛けをしている。それが初期の効果を上げているのかどうか、もし先生のご研究に資する部分があればですね一宮をフィールドとしてお使いいただき、ご高齢の方に関する各種データが数値的にいい文脈がなにへんにあるのかそのあたりもですね、もし、先生からご研究いただければ私どもも助けていただくものが大きいなと思うところであります。

それから横の連携のお話しですが、ここにはあまり載っておりませんが、先程申し上げたとおり各部局が自分たちのところでやっているもの、ある種の偶然性もあるんですけども、その年度、その人がそこに配置されるってことは、全体の人事計画の中で決まってしまうわけなんですけれども必然性があったり、なかったりです。そういう中でそれぞれに担当の仕事だけをやることになりがちなんです。これがいわゆる縦割りの弊害ですけども、そういうことではなくて、総合戦略全体が全員が目指すべき目標だということで全管理職に実際、どういう中身で、どういうところまで進んでいるのか、これを共有して自分たちがその担当でなくともアドバイスや協力ができることがあればそれを当事者として担ってほしいとそういうことをメッセージとして伝えながら全員で議論をしました。必ずしも談論風発とまではいかなかったんですけども、私どもとしては横串を入れていった。縦割り行政は、人間の情報処理の仕組みの中でそれを避けられない部分もあるんですけどもそれを常に補ってその不足部分を解消していかななくてはならない、この点については先生方がおっしゃられたとおりで私どもも強く意識しております。例えば、私どもの町の公園が近隣に比すると数はあるけれども一つ一つみると零細であります。それが町全体に散在していて5つの部局に所属しているんです。今まではこれを横に連ねる視点というのは全くなかったんです。各所管の公園だけを今までの前例に従ってやっていただけです。それでは、全く先に進みません。他の市町村にはそれなりに大きな公園があったりして羨ましいといった声も多いんですけど一宮町は、町有地の具合もあってなかなか短期に大きい公園を提供することが難しい。だとすると零細がたくさんある公園を横に連ねて例えば、年齢層ですとかニーズに合わせてそれぞれ特化していくことでユーザーの皆さんの満足度を上げていく、そういうことしかおそらくこれを質的アップさせることしかないであろうということで、部局横断で連絡会議を作ってユーザーを交え協働で議論し公園整備をしていきたい。全体に部局横断的にあたり住民協働の形を確保していかないと、またよりしてしまいます。また、自然保護関係などは相当実があがっている。本日は、ご指摘いただきましてありがとうございました。

事務局

それでは、長時間にわたり委員の皆様には、慎重審議ありがとうございました。本日、いただきましたご意見につきましては、事務局で取りまとめをおこないまして、後日、委員の皆様にご一読いただき、その後まちホームページ、広報等でお知らせしたと思います。

以上をもちまして、第1回一宮町まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会といたします。ありがとうございました。